

## 第2学年国語科学習指導案

指導期間 平成14年8月27日～9月9日  
指導学級 石鳥谷町立石鳥谷小学校  
2年2組 男子20名 女子20名 計40名  
指導者 上野尚子（長期研修生）

- 1 単元名 「話し方をくふうして はっぴょうしよう」  
教材名 あったらいいな、こんなもの（光村図書「こくご二年(上)」）

### 2 教材について

#### (1) 教材について

この教材では自分たちが考えた発明品をみんなに紹介する活動をとおして、話し方の工夫や聞くことの大切さを学ばせることをねらっている。学習活動は大きく三つに分けられる。一つ目は、二人組みで「あったらいいな」と思うものについて話し合うこと。二つ目は「あったらいいもの」を聞いている人に分かりやすく伝えるために話すことや順序を考えること。三つ目は、別の組の人との発表の練習と、学級のみんなの前での発表である。その活動のなかで、よい話し方を理解させるとともに、聞き手の姿勢を育てることもできる教材である。

#### (2) 児童について

児童は1学期までに、大切なことを選んで順序よく話すことや人物の特徴を落とさずに聞くことを学習している。また、話し合うことにおいてはほとんどの児童と協力して活動することは経験しているが、話題に沿って話し合うことは初めてのことである。そこで具体的な話し合いの場面を録音したものを聞かせることで理解を深めさせていきたい。

#### (3) 指導にあたって

この学習では、児童の夢を膨らませることが大切で、既成の物事に縛られない自由な発想をもとにして授業を展開したい。発表に向けては、聞き手のことを十分に意識させて、聞き手に分かりやすく伝えるためには、話す順序をどうしたらいいか考えさせたい。指導過程のなかでよい話し方、聞き方について焦点を当てて指導し、お互いによさを認め合うなかで、育てていきたい。

### 3 単元の目標

#### (1) 国語への関心・意欲・態度

- ・「あったらいいな」と思うものについて、話題に沿って話し合ったり、順序を考えて話したりしようとしている。

#### (2) 話すこと・聞くこと

- ・「あったらいいな」と思うものについてそれがどんなものかを、話す順序を考えながら、聞き手にわかるように話すことができる。
- ・大事なことを落とさずに聞き、わからないことは質問することができる。
- ・どんなものがあったらいいか、組になった人と話し合って決めることができる。

#### (3) 言語事項

- ・「あったらいいもの」の名前や内容がよく伝えられるように、はっきりと話すことができる。
- ・丁寧な言葉遣いで発表することができる。
- ・新出漢字の読み方、書き方に慣れ、新出漢字を使ったことば作りをすることができる。

### 4 単元の指導計画（全14時間）

- (1) 第一次 あったらいいなと思うものを想像し、学習の見通しをもつ。（3時間）
- (2) 第二次 二人一組で、発表の内容を相談する。（3時間）
- (3) 第三次 発表会の練習をする。（3時間）
- (4) 第四次 発表会をし、よかったことを賞状に書く。（5時間）

単元名（ 五 話し方をくふうして はっぴょうしよう 「あったらいいな、こんなもの」 ） 指導時数（ 14 時間 ）

本時の指導（ 1 時間目）

（1）目標

- ・ 「あったらいいな、こんなもの」の教材文の中で使われている新出漢字の読み方、書き方を知り、練習をする。

（2）展開

段階	学習活動及び内容	教師の働きかけ・支援策 〈めざす児童の姿〉	児童の活動	個々の思考を助ける書く活動 〈ねらい〉	評価規準 【関連】
導入 5分	1 学習課題を知る。 新しいかん字をれんしゅうしよう。	・「あったらいいな、こんなもの」にはたくさんの漢字が出てくるのでしっかり学習しようと励ます。	聞く 書く	・題名を書く。(A-1) ・学習課題を書く。(A-1)	
展開 35分	2 新出漢字の書き方を知り、練習する。 3 新出漢字を使った言葉作りをする。 4 書いた漢字を読む。	・全員に「いち」「にい」と筆順を唱えさせながら空書させて指導する。 ・赤ペンと鉛筆を使って書かせる。 ・それぞれの漢字について学習活動の3、4を効果的に取り入れながら進める。 ・漢字を見て気づいたことなども話させながら学習させる。 ・読み仮名を消して読ませる。 ・一斉読みの後、グループ読み、一人ずつ順に読むなど、読ませ方を工夫する。	書く  話す  読む	・新出漢字を書く。(A-2)  ・新出漢字を使った言葉を作る。(B-2)	・筆順を確かめながら正しく書こうとしている。 【新出漢字のノートへの書き方。】 ・漢字を使った言葉を考えることができる。  ・はっきりとした発音で読む。
終末 5分	5 本時を振り返る。 6 次時の学習内容を知る。	・感想を発表させる。 ・あったらいいなと思うものについて発明する時間であることを知らせ、次時への期待をもたせる。	書く	・学習の反省を書く。(C-1) 〈学習課題についての反省をし、次時の学習へとつなげる。〉	

（3）評価

- ・ 「あったらいいな、こんなもの」の教材文の中に使われている新出漢字の読み方、書き方を知り、練習をすることができる。(ノート)

単元名 ( 五 話し方をくふうして はっぴょうしよう 「あったらいいな、こんなもの」 )

指導時数 ( 14 時間 )

本時の指導 ( 2 時間目)

(1) 目標

- ・ 「あったらいいな。」と思うものに興味をもち、考えることができる。

(2) 展開

段階	学習活動及び内容	教師の働きかけ・支援策 <めざす児童の姿>	児童の活動	個々の思考を助ける書く活動 <ねらい>	評価規準 【関連】
導入 5分	1 題名からこれからの学習について見通しをもつ。 2 学習課題を知る。 どんなものがあったらいいか考えよう。	・「あったらいいな」と思ったことはあるかをたずね、これからの学習への意欲づけとする。  P66を読み、今後の学習の見通しをもたせる。	書く 話す  読む 書く	・題名を書く。(A-1) <題名を書くことで、これからの学習への意欲づけとする。>  ・学習課題を書く。(A-1)	
展開 30分	3 ドラえもんのビデオを見て、便利な道具を知る。  4 ビデオをヒントに、「あったらいいな。」と思うものを書き出す。	・いろいろな道具を編集したビデオを見せ、「あったらいいな。」という気持ちにさせる。 ・ビデオを見ての感想を話させる。  ・ドラえもんの道具にとらわれず、あったらいいなと思うものを自由に書き出させる。  ・一定の時間になったら何人かに考えを出させる。	聞く 話す  書く  話す	・あったらいいなと思うものをメモする。(A-2) <名前や書き方にとらわれず、こんなものがあれば便利だと思うものを自由に書くようにさせる。>	・興味をもって見たり聞いたりしている。  ・ビデオをヒントに「あったらいいな。」と思うものを書き出すことができる。
終末 5分	5 本時を振り返る。 6 次時の学習内容を知る。	・感想を発表させる。  ・あったらいいなと思うものについて発明する時間であることを知らせ、次時への期待をもたせる。	書く	・学習の反省を書く。(C-1) <学習課題についての反省をし、次時の学習へとつなげる。>	【本時のメモをもとに次時は詳しく考える。】

(3) 評価

- ・ 「あったらいいな。」と思うものに興味をもち、考えることができたか。(ノート・発言)

単元名 ( 五 話し方をくふうして はっぴょうしよう 「あったらいいな、こんなもの」 )

指導時数 ( 14 時間 )

本時の指導 ( 3 時間目)

(1) 目標

- ・ どんなものがあったらいいと思うか、具体的に考えることができる。

(2) 展開

段階	学習活動及び内容	教師の働きかけ・支援策 <めざす児童の姿>	児童の活動	個々の思考を助ける書く活動 <ねらい>	評価規準 【関連】
導入 5分	1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を知る。 あったらいいな、と思うものをはつめいしよう。	・ 前時は、「あったらいいな。」と思うものについてメモしたが、本時はさらにくわしく考える時間であることを知らせる。 ・ みんなが発明家になる学習であることを知らせ、意欲をもたせる。	聞く 書く	・ 学習課題を書く。(A-1) <学習への課題意識をもたせる。>	
展開 30分	2 どんなことができるものがあったらいいか、考えて書く。  3 例を聞き、もっと知りたいことを発表する。  4 発明品について書き足す。	・ 「どんなものがあったらいいと思う。」と問いかけ、自由に書かせる。 ・ 考えられない子には、「こうなればいいな」とか「こんなことで困っているよ」という思いがないか考えさせる。 ・ 一つの例をあげ、もっと知りたいことはないかを発表させ、詳しく書けばよくわかることに目を向けさせる。 ・ 観点を板書する。<どんなときにどこでつかうのか、どんな形をしているか、どんなことができるか、名前> ・ 自分の発明品をもっとみんなにわかってもらうために、書き足したいことはないか、板書の観点を参考に考えさせ、書き足させる。 ・ 一定の時間になったら、何人かの考えを発表させ、さらに考えるきっかけとする。	書く  聞く 話す  書く  聞く	・ どんなことができるものがあったらいいか書く。(A-2) <それぞれアイデアをもたせる。>  ・ 考えた発明品について詳しく書き足す。(B-1) <観点を参考に書かせる。>	【前時の学習で書いたノートを見ながら学習を進める。】  ・ あったらいいなと思うものについて、くわしく書く。
終末 10分	5 本時を振り返り、友だちの発明品に感想を書く。  6 次時の学習内容を知る。	・ 書いたものをとんだりどうし交換して読み合わせ、友だちの発明品のよさに目を向けて感想を「元気カード」に書かせて貼らせる。 ・ みんなの発明品を紹介するためにはどうしたらよいかを考えていく学習をすることを知らせる。	読む 書く	・ 友だちの発明品を読んだ感想を書く。(C-2) <よさの認め合い。>	【5 時間目の話し合いの参考にする。】

(3) 評価

- ・ どんなものがあったらいいと思うか、具体的に考えることができたか。(ノート、発言)

単元名 ( 五 話し方をくふうして はっぴょうしよう 「あったらいいな、こんなもの」 )

指導時数 ( 14 時間 )

本時の指導 ( 4 時間目)

(1) 目標

- ・ ふたりで話し合うときに気をつけることを考えることができる。

(2) 展開

段階	学習活動及び内容	教師の働きかけ・支援策 <めざす児童の姿>	児童の活動	個々の思考を助ける書く活動 <ねらい>	評価規準 【関連】
導入 5分	1 前時の学習を振り返り、今後の学習を知る。  2 学習課題を知る。 ふたりひと組になってはつめい品を考えよう。	・ 前時に書いたノートを見せ、「あったらいいな。」と思うものを考えたことを想起させる。これからの学習は、すばらしい発明品をみんなで作成し合うために学習していくことを確認する。 ・ 今回はそれぞれの発表ではなく、二人で協力して発明品を考えて発表する学習をすることを知らせる。	聞く 読む  読む 書く	・ 課題を書く。(A-1) <学習への課題意識をもたせる。>	【これまでの発表会との違いを確認し、話し合いが必要なわけに気づかせる。】
展開   30分	3 話し合いが必要なことを確認する。  4 どんな話し合いがよいかを考える。	・ どうすれば決めることができるかを考えさせ、話し合いが必要なことに気づかせる。 ・ 「さあ話し合いましょう。」と話しかけ、児童を戸惑わせ、しっかりと手順が大切なことに気づかせる。 ・ 二人で話し合うときに気をつけることを書かせる。 ・ 書いたものを発表させ、まとめる。 <仲良く話し合う。話をよく聞く。話題に沿って話し合う。相手にわかるように話す。相手の気持ちになって聞く。・・・など>	話す  書く 話す	・ よい話し合いをするときに気をつけなければならないことを考えて書く。(A-2) <話し合いのときに気をつけなければならないということを意識させる。>	・ よい話し合いをするために気をつけることを書くことができる。 【今後の話し合いをするときには、本時に考えたことをつねに思い起こすようにさせる。】
終末 10分	5 次時の学習内容を知る。  6 本時を振り返る。	・ 実際に二人組みで話し合うことを知らせ、期待感をもたせる。 ・ 前の時間に考えた発明品のほかにもいい考えが浮かんだら次時の話し合いで出し合ってよいことを確認し、意欲付けとする。 ・ 小テストをする。	聞く  書く	・ 学習の成果を確かめる。(C-1) <二人での話し合いの仕方について意識させる。>	【次時には本時の学習を生かして話し合うようにさせる。】

(3) 評価

- ・ 話し合いをするときに大切なことを考えることができたか。(ノート、発言、小テスト)

単元名 ( 五 話し方をくふうして はっぴょうしよう 「あったらいいな、こんなもの」 ) 指導時数 ( 14 時間 )

本時の指導 ( 5 時間目)

(1) 目標

- 話し合いをするときに気をつけることをもとに、「あったらいいな。」と思うものを話し合い、決定することができる。

(2) 展開

段階	学習活動及び内容	教師の働きかけ・支援策 〈めざす児童の姿〉	児童の活動	個々の思考を助ける書く活動 〈ねらい〉	評価規準 【関連】
導入 10分	1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を知る。 ふたりひと組になってはつめい品を考えよう。	・前時、話し合いで気を付けることについて学習したことを想起させ、本時の学習の中心となることを知らせる。 ・二人組で話し合うことを知らせる。	聞く 読む	・課題を書く。(A-1) 〈学習への課題意識をもたせる。〉	【3時間目に考えた観点をもとにして話し合う時間である。】
展開 30分	2 どんな話し合いをしたらよいかを確認する。 3 話し合いで気をつけることを確認し、話し合う。	・お互いの考えを出した後、最後に二人の意見が一致したものを一つだけ選び、発表することを確認する。 ・話し合う前に、前時の学習をもとに話し合いの注意点を確認するとともに、P68 の話し合いの様子を読み、話し合い方を確認してから話し合わせる。	聞く 話す 書く	・話し合いで決まったことをノートに書く。(B-1) 〈観点ごとに分けて書く。〉	【前時の学習を想起させる。】  【3時間目のノートを参考にさせる。】 ・相手の話を受けながら、自分の考えを積極的に述べている。 ・発表するものについて、二人で互いの考えを尊重しながら話し合っている。 ・相手のことを考え、はっきりと丁寧な話し方をしている。 【本時に考えた発明品のメモをもとに発表ができるようにする。】
終末 5分	4 本時を振り返る。 5 次時の学習内容を知る。	・話し合いの結果を、反省項目(話し方、聞き方、話し合い方)をもとに反省させる。 〈お互いのがんばって話し合いができたという気持ちにさせたい。〉 ・話し合いの様子を見てよかったことを教師からも知らせ、励ましとする。 ・本時にきめた発明品をどのようにみんなに発表するかを考える学習であることを知らせる。	書く 聞く	・学習の反省をする。(C-1) 〈反省を次の学習に生かすようにさせる。〉	【前時確認した話し合いの観点をもとにする。】  【決まった発明品について、発表ができるように考えていくことを知る。】

(3) 評価

- どんなものがあったらいいか、組になった人と話し合っただけで決めることができたか。(ノート)

単元名 ( 五 話し方をくふうして はっぴょうしよう 「あったらいいな、こんなもの」 )

指導時数 ( 14 時間 )

本時の指導 ( 6 時間目)

(1) 目標

- ・ 聞いている人に分かりやすく伝えるためにはどんなことを話したらよいかを考えることができる。

(2) 展開

段階	学習活動及び内容	教師の働きかけ・支援策 <めざす児童の姿>	児童の活動	個々の思考を助ける書く活動 <ねらい>	評価規準 【関連】
導入 3分	1 本時の学習課題を知る。 はっぴょうすることをきめよう。	・自分たちの発明品を、聞いている人に分かりやすく伝えるためには何を話さなければならぬかを考えていくことを知り、学習の見通しをもたせる。	書く 聞く	・課題を書く。(A-1) <学習への課題意識をもたせる。>	
展開 39分	2 前時をふり返る。  3 二人で話し合う。  4 聞いている人に分かりやすく話すためにはどんなことを話さなければいけないかを考える。  5 聞いている人に分かりやすく伝えるために気をつけることをもとに、発表することを決める。	・前時は、二人で話し合って発表するものを決める学習をしたが、様子を見ていると、なかなかうまくできていなかったことを知らせ、ふたりでの話し合いのモデルとして①を聞かせて参考にさせる。 ・なにを話し合うのか確認する。<こんなものがあったらいいな、便利だな、と思うもの> ・話し合いがうまくいった組も、もう一度よく考え、友だちが、「すごいな」「あったらいいな」「ほしいな」と思ってくれるものを二人で話し合って決めるように考え、発表するものを確認し、決定させる。二人仲良くじっくりと考えることのよさを知らせる。 ・自分たちの発明品を、聞いている人に分かりやすく伝えるためには(説明するためには)何を話せばよいかを考えさせる。 <名前、形、何ができるか、どこで使うか、よいところ・・・> ・二人組みでどんなことを話すかを話し合い、決まったことはノートに書かせる。ノートへの書かせ方を指導する。 ・しっかりと決まった組は、話す順序を考え、番号をつけさせる。	聞く  話す 聞く  話し合う 書く 話す  話し合う 書く	・聞く人にわかってもらうために話したほうがよいことを書く。(A-2) <相手を意識して考える。>  ・話し合いで決まったことをノートに書き、順番の番号を書く。(B-1) <話す順番を確認する。>	【3時間目に考えた発明品を書いたノートを参考にさせる。】  【3時間目の学習をもとに考えさせる。】 ・相手の話を受けながら、自分の考えを積極的に述べている。 ・発表するものや発表について、二人で互いの考えを尊重しながら話し合っている。 ・相手のことを考え、はっきりと丁寧な話し方をしている。 【話し合ったことを次時の発表練習に生かすようにさせる。】
終末 3分	6 本時を振り返る。  7 次時の学習内容を知る。	・話し合いの結果を、反省項目(話し方、聞き方、話し合い方)をもとに反省させる。 ・発表の練習をすることを知らせる。	書く 聞く	話し合いの反省を書く。(C-1) <次時の発表練習につなげるために、課題意識を持たせる。>	【前時と比較してよくなっているか確認する。】

(3) 評価

- ・ 聞いている人に分かりやすく伝えるためにはどんなことを話したらよいか考えることができたか。(ノート、観察)

単元名 ( 五 話し方をくふうして はっぴょうしよう 「あったらいいな、こんなもの」 )

指導時数 ( 14 時間 )

本時の指導 ( 7 時間目 )

(1) 目標

- ・ 二人組で聞いている人に分かりやすく伝えるために発表の練習をすることができる。

(2) 展開

段階	学習活動及び内容	教師の働きかけ・支援策 〈めざす児童の姿〉	児童の活動	個々の思考を助ける書く活動 〈ねらい〉	評価規準 【関連】
導入 5分	1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">聞いている人に分かりやすくつたえるために、はっぴょうのれんしゅうをしよう。</div>	・前時、二人で考えたことをもとに、発表の練習をすることを知らせる。		・課題を書く。(A-1) 〈学習への課題意識をもたせる。〉	
展開  30分	2 よい発表について考える。  3 発表の練習をする。	・どんな発表をすれば聞いている人に分かりやすく伝えられるか考えさせる。 〈みんなに聞こえるように、大きな声で、はっきりと話す。みんなの方を見て。よい姿勢で。〉  ・前時のノートに順番を書かせる。 ・誰がどこを発表するかを決めさせる。 ・発表の仕方についてからどんな発表をしたらよいか参考にさせる。 ・どんなふうに話したらよいか考えさせて、場合によってはノートに書かせるなどして自信をもって発表の練習をさせる。	書く  話す 聞く  書く	・聞いている人にとってわかりやすい発表は、という観点で、考えたことを書く。(A-2) 〈自分たちが発表するときを意識させる。〉 〉	・自分たちが考えたものについて、話す順序や準備するものなどを工夫して話している。 ・相手の話を受けながら、自分の考えを積極的に述べている。 ・発表するものや発表について、二人で互いの考えを尊重しながら話し合っている。 ・相手のことを考え、はっきりと丁寧な話し方をしている
終末 10分	5 本時を振り返る。  6 次時の学習内容を知る。	・練習の結果を、反省項目(話し方、聞き方、話し合い方)について反省させる。 ・小テストをする。  ・本時の発表の練習をもとに、二組が一緒になって発表の練習をすることを知らせる。	書く  書く  聞く	・話し合いの反省を書く。(C-1) 〈次時の発表につなげるために、課題意識を持たせる。〉 ・学習の成果を確かめる。(C-1)	【次時は二組交代で発表練習をする。】

(3) 評価

- ・ 聞いている人に分かりやすく伝えるためにカードをもとに発表の練習をすることができたか。(ノート、発言)
- ・ よい発表の仕方がわかったか。(ノート、小テスト)



単元名 ( 五 話し方をくふうして はっぴょうしよう 「あったらいいな、こんなもの」 )

指導時数 ( 14 時間 )

本時の指導 ( 8 時間目 )

(1) 目標

- ・ 四人組になり、交代で発表の練習をし、気付いたことを伝え合うことができる。

(2) 展開

段階	学習活動及び内容	教師の働きかけ・支援策 〈めざす児童の姿〉	児童の活動	個々の思考を助ける書く活動 〈ねらい〉	評価規準 【関連】
導入 10分	1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を知る。 きょうりよくしてはっぴょうのれんしゅうをしよう。	・ 前時の発表の練習をもとに、二組が一緒になって発表の練習をすることを知らせる。	話す 書く	・ 課題を書く。(A-1) 〈学習への課題意識をもたせる。〉	【前時の練習の成果をお互いに発表しあう。】
展開 30分	2 発表の練習をする。  3 別の組の人と交代で発表の練習をし、気付いたことを伝え合う。  4 発表の反省をし、発表の練習をする。	・ 前時に確認した、発表のときに気をつけることを確認してから二人組みになり発表練習をさせる。  ・ お互いに発表させ、気付いたことを教え合わせる。 ・ 発表会の発表のように立って発表させる。 ・ 一つのグループが発表したら、よかったことや気付いたことを順に話させる。  ・ 友達の見方を参考にさせ、直したいことがあったら直してもよいことにし、確認させる。	聞く 話す 聞く  話す	・ 気が付いたことをメモする。(B-1) 〈相手の発表を注意して聞かせ、よいことや直したいことに気付く。〉	・ 自分たちが考えたものについて、話す順序や準備するものなどを工夫して話している。  ・ 相手のことを考え、はっきりと丁寧な話し方をしている。 ・ 自分たちが考えたものについて、話す順序や準備するものなどを工夫して話している。 ・ 発表するものや発表について、二人で互いの考えを尊重しながら話し合っている。
終末 5分	5 本時を振り返る。  6 次時の学習内容を知る。	・ 練習の結果を、反省項目をもとに反省させる。  ・ 発表会の準備をすることを知らせる。	書く	・ 学習の反省をする。(C-1) 〈反省を次の学習に生かすようにさせる。〉	【本時の学習は10時間目の発表会に生かす。】

(3) 評価

- ・ 四人組で発表練習をし、気付いたことを伝え合うことができたか。(メモ・発言)

単元名 ( 五 話し方をくふうして はっぴょうしよう 「あったらいいな、こんなもの」 )

指導時数 ( 14 時間 )

本時の指導 ( 9 時間目)

(1) 目標

- ・ 発表会の流れを知り、発表会の準備をすることができる。

(2) 展開

段階	学習活動及び内容	教師の働きかけ・支援策 <めざす児童の姿>	児童の活動	個々の思考を助ける書く活動 <ねらい>	評価規準 【関連】
導入 5分	1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を知る。 はっぴょうの聞き方をたしかめよう。	・ 発表会では、発表することとともによりしっかりと聞くことが大切な活動であるので、聞き方を考える時間であることを確認する。	書く	・ 課題を書く。(A-1) <学習への課題意識をもたせる。>	
展開 35分	2 発表の聞き方を確認する。  3 発表会の流れを知り、司会の練習をする。	・ P70 の文章を読んだり、絵を見たりして、発表会の様子をつかませる。 ・ 聞いている人に着目させ、質問、感想を話している人がいることに気づかせる。 ・ P71 の赤枠の文章を読ませ、発表の後には、分からないことを質問したり、感想を言ったりすることを確認する。そのためによりどんな姿勢で聞けばよいか意識させるため、書かせる。 <話す人を見る。黙って聞く。分からないことがあったら質問する。発表のよいところを見つける・・・など。>  ・ 司会は全員が行うので、その流れを知らせる。 ・ 教師が発表者になってまず全員に練習させる。 ・ 前時に練習した相手の組を紹介することにする。司会の仕方を練習させる。 1 はじめの言葉 発表者の紹介 2 質問や感想 3 元気カードの記入 4 終わりの言葉	読む  話す  書く 話す  聞く 話す	・ どんな聞き方をすればよいか書く。(B-1) <聞く姿勢を確認させる。>	・ 発表会で、どんな聞き方をすればよいか分かる。  【次時の発表会に生かすために、聞き方をしっかりと確認する。】  ・ 相手のことを考え、はっきりと丁寧な話し方をしている。
終末 5分	4 本時を振り返る。 5 次時の学習内容を知る。	・ 小テストをする。  ・ よいよ発表会をすることを知らせる。	書く  聞く	・ 学習の成果を確かめる。(C-1) <よい発表の仕方を意識させる。>	【本時の学習は次時の発表会へ生かし、意欲をもって取り組ませる。】

(3) 評価

- ・ 発表会の流れを知り、聞き方を確認し、発表会の準備をすることができたか。(ノート、発言、観察)

単元名 ( 五 話し方をくふうして はっぴょうしよう 「あったらいいな、こんなもの」 )

指導時数 ( 14 時間 )

本時の指導 ( 10、11 時間目)

(1) 目標

- ・ 発表会をし、しっかりと発表するとともに友だちの発表を聞いた感想をまとめることができる。

(2) 展開

段階	学習活動及び内容	教師の働きかけ・支援策 <めざす児童の姿>	児童の活動	個々の思考を助ける書く活動 <ねらい>	評価規準 【関連】
導入 5分	1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">はっぴょう会をして、ともだちのよいところを見つけよう。</div>	・ 発表会の準備は万全なので、がんばって発表会をしようと励ます。	聞く  書く	・ 課題を書く。(A-1) <学習への課題意識をもたせる。>	
展開  75分	2 発表会を行う。 発表1分、質問感想1分、記録1分 3分×20組=60分以内をめぐに	・ 前時に確認した聞き方についての注意点を確認してから活動に入らせる。 ・ 順に発表させるが、発表の後よいところを見つけた一言感想をカード(元気カード)に書かせるようにする。 ・ 発表会の後、元気カードを掲示し、読み合うことができるようにする。 ・ 賞状は自分たちの発表の次に発表をする人たちへおくることを知らせ、しっかりと聞き、よさを見つけるようにさせる。 ・ 感想を言う人が偏らないように、全員からうまく引き出せるよう助言する。	話す 聞く 書く	・ 発表を聞き、一言感想を書く。(B-1) <注意して聞くようにさせる。>	・ 相手のことを考え、はっきりと丁寧な話し方をしている。 ・ 自分たちが考えたものについて、話す順序や準備するものなどを工夫して話している。  【次時は発表の仕方でもよかったことを賞状に書くことを知らせ、注意して聞かせる。】
終末 10分	5 本時を振り返る。  6 次時の学習内容を知る。	・ 感想を発表させる。  ・ よかったと思うところを賞状に書く学習をすることを知らせる。	話す  聞く		【13 時間目に、発表会を振り返るときの参考にさせる。】

(3) 評価

- ・ 発表会をし、しっかりと発表するとともに友だちの発表を聞いた感想をまとめることができたか。(ノート、発言、観察)

単元名（ 五 話し方をくふうして はっぴょうしよう 「あったらいいな、こんなもの」 ）

指導時数（ 14 時間 ）

本時の指導（ 12 時間目）

(1) 目標

- ・ 友だちの発表のよかったことを賞状に書き、認め合うことができる。

(2) 展開

段階	学習活動及び内容	教師の働きかけ・支援策 <めざす児童の姿>	児童の活動	個々の思考を助ける書く活動 <ねらい>	評価規準 【関連】
導入 10分	1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を知る。 ともだちのはっぴょうにしようじょうを書こう。	・ 発表会の感想をもとに、よかったと思うところを賞状に書いておくことを知らせ、意欲をもたせる。	聞く 話す	・ 課題を書く。(A-1) <学習への課題意識をもたせる。>	【前時の発表会での記録を振り返る。】
展開 30分	2 賞状を書く。  3 賞状の伝達を行う。	・ 前時にまとめておいたノートをよく見て、よかったことをどう書けばよいか考えさせる。P71 の例も参考にさせるが、そのほかのアイデアも出させるようにする。 <友だちの発表のよいところを見つけて書くことができる。>  ・ 賞状用紙を準備し。に丁寧に書かせる。  ・ 場の設定を行う。渡す人と、もらう人が向かい合って立たせるようにする。 ・ 順番に伝達させ、みんなで拍手しがんばりを認め合う。  <よさの認め合い。>	書く  書く  読む 聞く  書く	・ 教科書の本文を視写する。(B-1) <どんな書き方をするのか、書きながら考えさせ、自分で書くときの参考にさせる。>  ・ 賞状をもらったの感想と、賞状の内容についての感想を書く。(C-1, 2) <成就感をもたせる。>	・ 友だちの発表のよかったところを主語と述語の関係に注意して書いている。
終末 5分	4 本時を振り返る。  5 次時の学習内容を知る。	・ 感想を発表させる。  ・ 今までの学習を振り返って感想を書くことを知らせる。	話す  聞く		【ほめてもらうとうれしいという気持ちをこれからも忘れないようにさせる。】

(3) 評価

- ・ 友達の発表のよかったことを賞状に書き、認め合うことができたか。(賞状)

単元名 ( 五 話し方をくふうして はっぴょうしよう 「あったらいいな、こんなもの」 )

指導時数 ( 14 時間 )

本時の指導 ( 13 時間目)

(1) 目標

- ・ 発表会までの学習を振り返り、発表会をした感想をまとめることができる。

(2) 展開

段階	学習活動及び内容	教師の働きかけ・支援策 <めざす児童の姿>	児童の活動	個々の思考を助ける書く活動 <ねらい>	評価規準 【関連】
導入 10分	1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">はっぴょう会をしたかんそうをまとめよう。</div>	・ 今までの学習を振り返り、感想をまとめる学習をすることを知らせる。	聞く  書く	・ 課題を書く。(A-1) <学習への課題意識をもたせる。>	【前時までにやってきた活動を想起させる。】
展開  30分	2 感想を書く視点を知る。	・ 1時間目から今までの活動を振り返り、たくさんさんの活動を行ってきたことを思い出させる。 ・ 今までのノートやカードをもとに、自分の学習をふりかえらせ、自分のがんばりや楽しかったことなどをまとめさせる。 ・ 一定の時間になったら何人かの感想を発表させ、がんばりを認めさせる。  <単元最後の時間なので、みんなに達成感をもたせられるようにがんばりを認め合う。>	書く  書く 話す	・ 何について書くか、題名を書く。(A-2)  ・ 感想を書く。(C-1, 2) <みんなに達成感をもたせられるように自他のがんばりを認め合う。>	【10、11 時間目の感想や、今までの学習の記録をもとに考えさせる。】  ・ 文の中の主語と述語の関係に注意して書いている。 ・ 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書く。
終末 5分	3 本時を振り返る。	・ 感想を発表させ、今後の発表活動の意欲付けをする。	話す		【発表会での達成感を今後の活動への意欲付けとする。】

(3) 評価

- ・ 発表会をするまでのがんばりを含めた感想をまとめることができたか。(ノート、発言)

単元名 ( 五 話し方をくふうして はっぴょうしよう 「あったらいいな、こんなもの」 )

指導時数 ( 14 時間 )

本時の指導 ( 14 時間目)

(1) 目標

- ・ 今までの学習をもとに、テスト問題に答えることができる。

(2) 展開

段階	学習活動及び内容	教師の働きかけ・支援策 <めざす児童の姿>	児童の活動	個々の思考を助ける書く活動 <ねらい>	評価規準 【関連】
導入 5分	1 前時までの学習を振り返り、本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">学しゅうのまとめをしよう。</div>	・ テスト問題を解く学習であることを確認する。	聞く  書く	・ 課題を書く。(A-1) <学習への課題意識をもたせる。>	【前時までにやってきた活動を想起させる。】
展開  35分	2 テスト問題を解く。	・ 名前を丁寧に書かせ、よく読んでから答えるように指示する。	聞く 書く	・ テスト問題を解く。(C-1)	・ テスト問題を読んで、問題を解いている。
終末 5分	3 次時の学習内容を知る。	・ 一年生で習った漢字を書く学習をすることを知らせる。	聞く		

(3) 評価

- ・ テスト問題をよく読み、よく考えて問題を解くことができたか。(テスト問題)